

臨床検査を終了した既存試料の教育利用に関する病院側の意識調査

◎畑本 大介¹⁾、小笠原 篤¹⁾
静岡医療科学専門学校 医学検査学科¹⁾

【はじめに】倫理的な観点により、病院から臨床検査技師養成校にスライド標本などの既存試料を提供することは難しいとされてきた。この度「臨床検査を終了した既存試料（残余検体）の研究、業務、教育のための使用について-日本臨床検査医学会の見解-2021年改定」が出された。本見解によって、養成校から病院へ、依頼があった場合は直ちにスライド標本などを提供しなければならない、というものではない。しかし、今後の臨床検査技師教育を、より良いものにしていくために、有用な見解になる可能性がある。本研究では、既存試料の教育利用に関する、病院側の認識について調べて、養成校が取るべき方向性を探ることを目的してアンケート調査を行った。

【対象と方法】アンケート調査は、静岡県内及び愛知県東三河地区にある基幹病院 20 施設に依頼して、17 施設から回答を得た。調査内容は、本見解を知っていたか、施設内における日本臨床検査医学会の会員数、血液塗抹標本、骨髓塗抹標本、病理標本、残余検体(血液、尿、糞便、髄液、体腔液)、既存情報(心電図検査結果、肺機能検査結果、超

音波検査結果、脳波検査結果)を養成校に提供する可能性が極めて高いか、全く無いかを、ネット・プロモーター・スコア(NPS)に従い 10 から 0 の 11 段階で回答してもらった。11 段階で 10 と 9 を選んだ施設を推奨者、8 と 7 を選んだ施設を中立者、6 から 0 を選んだ施設を批判者として、推奨者、批判者の割合を算出した。0 から 6 を選んで批判者となった施設には、その理由を回答してもらった。

【結果】血液塗抹標本、骨髓塗抹標本を提供することの推奨者は 11.8%(2 施設)、批判者は 76.5%(13 施設)であり、他調査項目に比べて推奨者割合は高く、批判者割合は低かった。病理標本を提供することの推奨者は 5.9%(1 施設)、批判者は 94.1%(16 施設)であり、推奨者の割合が最も低く、批判者の割合が最も高かった。

【考察】病理標本を提供することが最も難しい、という結果になった。しかし、これからの臨床検査技師教育の更なる発展のために、既存試料提供の重要性について病院と養成校とで協議していく必要がある。

連絡先 ; 053-585-1551